

OB・OG 会に寄せて

第3期 OG 服部 敬美

今年起こった身の回りの変化というお題目を選んで書き始めてみたが、特にないので、「身に起こった変化」について書かせて頂くことにしよう。現在27歳で、当然のことながら2010年で28歳になる。小野ゼミを卒業した時が22歳。社会にデビューして5年がたつ。まさに、光陰矢のごとし、である。

そんな、アラサー女子なのだが、年末のある日、突然の発疹に襲われた。全身痒すぎて泣きたくなる程だった（ボツボツの手脚を見てさらに泣きなくなった...）。医者に駆け込んだが原因はわからず、治っては出て、の繰り返しで今日に至る。

冬場の乾燥と、5年間の社会人生活の間に溜まった諸々が、皮膚から出てきたものだと思うことにした。5年といえば、小学校1年生が6年生になるのである。10年一昔の半分。それなりの時間である。いい機会を頂いたので、振り返ってみよう。

入社して初めて配属されたのは、本社の法人営業部だった。右も左もわからず、仕事の進め方もわからず、ただ先輩にくっついて回るだけだったが、大手町のキレイなオフィスに通い、丸の内OLであることに大満足だった。しかも、上司は野生動物を求めて長期休みのたびにアフリカに出かける自由人。ムツゴロウよろしく、おおらかに指導してくれた。2チャンネルで、私の人事関連のフォルダ名が「侵入社員」となっていたことは今でも忘れない。

そんな中、配属から1年たたずに支店の法人営業部に突然異動となる。弊社の支店といえば、筋金入りの電電族であるおじ様、おば様方の巣窟である。不本意極まりない異動だったが、ぶーたれながらも支店に通うしかない。

しかし、3ヶ月たつと、心から支店に来てよかった、と思うようになるのだ。私の上司はどっからどう見ても電電には見えない人々だった。社長表彰常連のデキリーマンなのだが、課長は松崎しげる並に黒い。サーフィンやらテニスやらジェットスキーやらでメラニン色素を増殖させ、サンシャインをこよなく愛する色黒至上主義者の集団であった。そして彼らは、行動が早い。実行力が半端ない。仕事も遊びも限度を知らない、人生を謳歌する人種というものを目の当たりにした。私は黒くはないが、なぜかかわいがってもらい、仕事も少しずつできるようになり、毎日会社に通うのが本当に楽し



現役時代の著者



NTT 東日本 新宿支社

かった。サンシャインを求め、沖縄出張にも行った（というか、作った）。

人生、どこでどうなるかわからないものだ。その時点で見えることだけで判断し、悲観したり騒いだりせずに、飛び込んでみよう。悪いようにはならないものだ。そんな風にポジティブな考えができるようになる経験だった。また、コナツな人々と関わって、価値観がブラッシュアップされたと思う（女っぷりも上がったかな？(笑)）。

だが、そんな支店パラダイスも1年たたずに終わってしまう。またしても異動である。今度は本社の財務部だという。しかも、不動産企画室などという、電話屋ですか？と疑いたくなる部署。

今度の上司は、リーゼントだ。当然、おっかない。仕事の出来が悪ければ容赦なく怒られる。もう若干ウツだ。しかし、リーゼント部長の言っていることはどれも正しいのだ。仕事人としてかなり鍛えてもらった。リーゼント部長から学んだことを集約すると、価値ある仕事に必要なのは想像力ということだ。知識や技術も一定レベルは必要だろうが、所詮、どんぐりである。周囲と一味違った、スパイスが効いた人材になるには、自分や他人のアクションが及ぼす影響を、誤差なくシミュレーションし、先手を打つ。相手が求めていることを正確に返す。相手が理解するように話す。などなど...自分本位ではいけないのだ。さらに、リーゼント部長には、社内外の刺激的な人を紹介してくれたり、飲み連れ出してくれたりと本当に良くしてもらった。

今の部署には2年半在籍している。2年もいると、それなりの仕事が回ってくる。財務部のくせに数字に適當なので、私がやると危険なのだが、今のところ大丈夫。リーゼント部長が先に異動になったが、同じフロアのスリッパ異動だった。私の動きや判断が悪いと、容赦なく斜め後ろからリーゼント攻撃がくるので今でも気が抜けない。

そんなこんなで、気づいたら入社当時からは想像できないほど、ちゃんと「仕事」できるようになったと思う。人間性も、女っぷりも上がったと思う（たぶん）。5年という時間をかけて、様々な人と関わって、それなりの社会人になった。仕事をすればするほど、自らの課題が見えてくるもので、次の5年をかけて、また少しずつ成長していこうと思う。

そういえば、例の発疹も最近治まってきた気がする。体内のもやもやもリセットしたら、軽やかに次のステップに進めそうだ。